

# ベースって、休符の部分が大事なんです。大切なのは、曲のグルーブ。

Monthly **Player's** Interview

## 窪田 宏

窪田宏の、1980年代から現在までの名曲を収録した曲集『THE BEST OF HIROSHI KUBOTA + ONE』が発売される。「今まで30年以上やってきた中から、スタッフの人とも相談して、人気の高かった曲を選んでいきます」

またこの曲集には、CD未収録で初スコア化の新曲「Spin Kick」も掲載されている。「新鮮さがあつたほうが、ほくもいいし、皆さんにも喜んでいただけるかなと思って、掲載しました。ちょっと難しいというか、たぶん途中で“できない”って気付くと思いますので、心してチャレンジしてみてください(笑)」

この曲集を手に入れて、チャレンジするときのアドバイスを聞いてみた。

「難しいことは確かだと思います。グルーブを大切にしたいので、3段鍵盤を一度に練習するよりも、まずはリズムをかけながら、ベースのパートから練習していったほうが、曲の雰囲気わかりやすいと思います。それである程度曲の雰囲気がわかったところで、今度は右手だけ練習して、最終的に3段を練習するというのがいいんじゃないかな。人間って、どうしても足がおろそかになりがちなんですけど、やっぱりベースは集中して弾いてもらいたいです。ベースって、休符の部分が大事なんです。伸ばして弾いたり、スタッカートで弾いたり、それによってニュアンスが全然違っちゃいますから。足をいっぱい動かして、カッコ良く弾きたいという人が多いと思うんですけど、速く動くから素晴らしいんじゃないかと、曲のグルーブが大切ですから」

彼はソロ活動のほかにも、TRIXやKK JAMといったユニットでも活動しているが、そんな彼から、エレクトーンをプレイしている人たちへのメッセージをもらった。

「エレクトーンという楽器は、すごく面白い楽器だと思うんですけど、自己完結できる楽器だから、一步間違ると自己満足で終わってしまうんですね。やっぱりアンサンブルというか、エレクトーン以外の楽器と合わせる機会が持てるのであれば、その楽しさ

や難しさを体験したほうが良いと思います。ただ上手い演奏とか、カッコいい演奏とかじゃなくて、アンサンブルをやっていると、バランスも良くなるし、今のエレクトーンはより多機能になった分、耳の良さも必要になりますから。いろいろな音楽のライブやコンサートに行くと、きっと何か驚きがある

と思いますし、その驚きや衝撃を受けたときの気持ちをぜひ大切にしてほしいですね」

(くぼた・ひろし)

1979年からプロとして活動を始め、1984年に『THE ELECTRIC FUTURE』でデビュー。その後エレクトーン/キーボード奏者、作曲家として活躍。2000年には全米でアルバムをリリースし、ニューヨークでライブも行った。現在はソロ活動とともに「KK JAM」「TRIX」といったグループのメンバーとしても精力的に活動している。11月中旬には、待望の曲集『THE BEST OF HIROSHI KUBOTA + ONE』が発売される。



窪田宏が音楽制作を行っている部屋で撮影。その一角に、彼の愛用D-DECK。人形に絵付けする職人さんが塗り上げたフェラーリレッドがかわいい！